

図6-4

羊水過多  
(n=2,076)

DIC  
(n=459)

癒着胎盤  
(n=262)

子癇  
(n=196)

40  
30  
20  
(週)

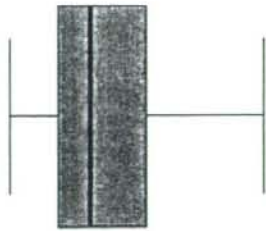
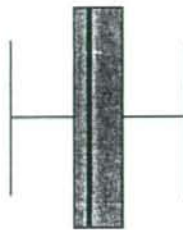
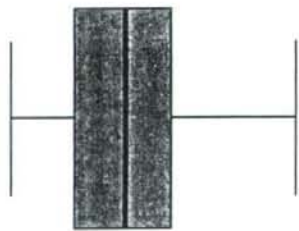
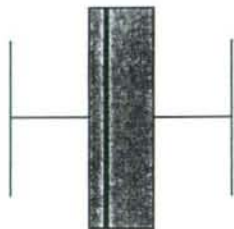
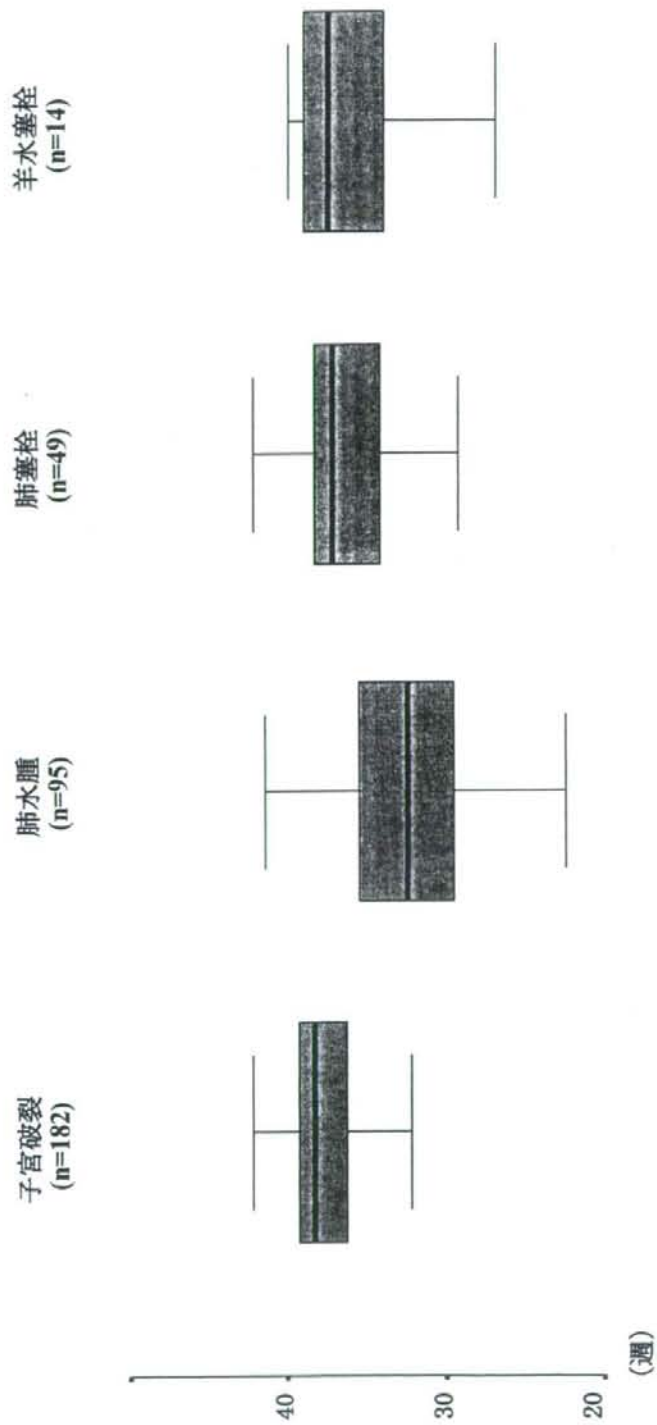


図6-5



## 周産期データベースの精製方法

### 1. 元データベースファイル

元となったデータベースファイルは以下のとおりである。これらのデータベースファイルは、全て File Maker Pro5 用のデータベースファイルである。

- 周産期登録 2001fix.fp5…2001 年のデータベースファイル
- 周産期登録 2002fix.fp5…2002 年のデータベースファイル
- 周産期登録 2003fix.fp5…2003 年のデータベースファイル
- 周産期登録 2004fix.fp5…2004 年のデータベースファイル
- 周産期登録 2005fix.fp5…2005 年のデータベースファイル

### 2. オリジナルデータファイル

元データベースファイルから、主として 2004 年と 2005 年の産科入力画面を参考にし、5 つのファイルからデータを抽出してオリジナルデータファイルを作成した。その際、次のような機械的なデータ変換を行った。

- アルファベット、数字、記号を半角に統一
- カタカナを全角に統一
- データの前後にあるスペースを削除
- データ中に含まれる改行記号、タブ記号等の空白扱い文字を半角スペースに変換
- 「.」、「-」、「\*」、「」（半角スペース）が 5 文字以上繰り返されていた場合は、削除または半

角スペースに変換

この段階で作成したファイルは次のファイルであり、5年分合わせて281,157例あった。

- shuusanki001org.csv

### 3. 精製後の解析用データファイル

オリジナルデータファイル「shuusanki001org.csv」のデータを精製し、解析用データファイルを作成した。データ精製は以下のように行った。

- 項目 1: 整理用 ID

2番の「整理番号」は重複が多く、整理番号として利用できない。このため、新たに整理用 ID を付けた。この ID は以下のような規則で付けた。

- 2001年…A9999999(Aの次に7桁の連番)
- 2002年…B9999999(Bの次に7桁の連番)
- 2003年…C9999999(Cの次に7桁の連番)
- 2004年…D9999999(Dの次に7桁の連番)
- 2005年…E9999999(Eの次に7桁の連番)

- 項目 2: 整理番号

元のデータベースで、症例に付けられていた整理番号。しかし重複が多く、整理番号として利用するのは難しいと思われる。

番号の後ろに名前や年月日がつけられたものもあったが、元のデータのままとおいた。

● 項目 3:施設 No

施設に整理用番号を付けるための予約項目。現在は全て欠損(ブランク)。

● 項目 4:施設名

無変換。

● 項目 5:担当者

無変換。

● 項目 6:母の氏名

全て欠損。

● 項目 7:母入院番号1

全て欠損。

● 項目 8:母体搬送 (0:なし、1:ありー緊急、2:ありー非緊急)

文字データを「0:なし、1:ありー緊急、2:ありー非緊急」に変換した。

元データは「なし」、「あり(緊急)」、「あり(非緊急)」が重複して入力してあったり、これ以外のデータが入力されていたりした。そのため、重複データは「あり(緊急)」、「あり(非緊急)」、「なし」という優先順位で変換し、これ以外のデータは欠損に変換した。

● 項目 9:入院理由 (1:陣痛発来、2:PROM、3:管理入院、4:その他)

文字データを「1:陣痛発来、2:PROM、3:管理入院、4:その他」に変換した。

元データは「陣痛発来」、「PROM」、「管理入院」、「その他」が重複して入力してあったり、これ以外のデータが入力されていたりした。そのため、重複データは「陣痛発来」、「PROM」、「管理入院」、「その他」という優先順位で変換し、これ以外のデータは欠損

## 周産期データベースの精製方法

に変換した。

### ● 項目 10: 分娩予定日

年月日のデータ形式を「西暦年/月/日」に統一した。

「2993/8/18」のように、明らかにインプットミスと思われるデータがあったが、それらはそのままにしておいた。

### ● 項目 11: 住所地

無変換。

### ● 項目 12: 妊娠中喫煙 (0:なし、1::あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データは「なし」、「あり」以外に、文字や数字が入力されていた。そのため、数字はタバコの箱数またはグレードと考え、「1」以上を「あり」に変換した。それ以外のデータは欠損に変換した。

### ● 項目 13: 妊娠中飲酒 (0:なし、1::あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データは「なし」、「あり」以外に、文字や数字が入力されていた。そのため、数字は飲酒量またはグレードと考え、「1」以上を「あり」に変換した。それ以外のデータは欠損に変換した。

### ● 項目 14: 妊娠回数(経妊)

0~19の数字データだけ採用した。

「16~17」というデータがあり、これは「16」に変換した。また、「-99」と「99」は欠損に変換した。

## 周産期データベースの精製方法

### ● 項目 15: 分娩回数(経産)

0～19 の数字データだけ採用した。

「-99」と「99」は欠損に変換した。

### ● 項目 16: 母身長

30～200 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「99」、「999」等は欠損に変換した。

### ● 項目 17: 入院時母体重

30～150 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「999」等は欠損に変換した。「99」というデータが 17 例あった。この中には欠損データのつもりで入力されたものもあると思われるが、そのままにしておいた。

### ● 項目 18: 非妊時体重

30～150 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「999」等は欠損に変換した。「99」というデータが 55 例あった。この中には欠損データのつもりで入力されたものもあると思われるが、そのままにしておいた。

### ● 項目 19: 不妊治療 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データは「なし」、「排卵誘発剤」、「AIH」、「体外受精」、「その他」が重複して入力しており、これ以外のデータも入力されていた。

この項目は重複選択が可能なので、「不妊治療-排卵誘発剤」、「不妊治療-AIH」、

## 周産期データベースの精製方法

「不妊治療－体外受精」、「不妊治療－その他」という項目を新たに作成し、この項目は全体の有無を表す項目にした。そして「なし」だけを「0」に変換し、それ以外のデータは「1」に変換した。ただし、欠損はそのままにしておいた。

### ● 項目 20: 不妊治療－排卵誘発剤 (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「不妊治療」項目を元にして新たに作成した項目。「不妊治療」項目に「排卵誘発剤」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 21: 不妊治療－AIH (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「不妊治療」項目を元にして新たに作成した項目。「不妊治療」項目に「AIH」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 22: 不妊治療－体外受精 (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「不妊治療」項目を元にして新たに作成した項目。「不妊治療」項目に「体外受精」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 23: 不妊治療－その他 (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「不妊治療」項目を元にして新たに作成した項目。「不妊治療」項目に「その他」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。ただし「不妊治療」項目に「排卵誘発剤」、「AIH」、「体外受精」、「その他」以外の文字データが入力されている時は、欠損にした。



## 周産期データベースの精製方法

- 項目 24: 分娩日

年月日のデータ形式を「西暦年/月/日」に統一した。

- 項目 25: 分娩時

0～23 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「99」等は欠損に変換した。

- 項目 26: 分娩分

0～59 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「99」等は欠損に変換した。

- 項目 27: 分娩の週数

22～45 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「99」等は欠損に変換した。

- 項目 28: 分娩の日数

0～6 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「99」等は欠損に変換した。

- 項目 29: 分娩時年齢

12～55 の数字データだけ採用した。

「-99」、「-999」、「99」等は欠損に変換した。

- 項目 30: 分娩時体重

30～150 の数字データだけ採用した。

## 周産期データベースの精製方法

「-99」、「-999」、「99」等は欠損に変換した。「99」というデータが36例あった。この中には欠損データのつもりで入力されたものもあると思われるが、そのままにしておいた。

### ● 項目 31: 分娩胎位 (1: 頭位、2: 骨盤位、3: その他)

文字データを「1: 頭位、2: 骨盤位、3: その他」に変換した。

元データにはこれ以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 32: 分娩方法 (1: 自然経腔、2: 吸引、3: 鉗子、4: 予定帝切、5: 緊急帝切、6: その他)

文字データを「1: 自然経腔、2: 吸引、3: 鉗子、4: 予定帝切、5: 緊急帝切、6: その他」に変換した。

元データはこれらのデータが重複して入力してあったり、これ以外のデータが入力されていたりした。そのため、重複データは「自然経腔」、「吸引」、「鉗子」、「予定帝切」、「緊急帝切」、「その他」という優先順位で変換し、これ以外のデータは欠損に変換した。

### ● 項目 33: 陣痛促進 (0: なし、1: あり)

文字データを「0: なし、1: あり」に変換した。

元データは「オキシトシン」、「PG」、「他の薬剤」、「機械」が重複して入力してあり、これ以外のデータも入力されていた。

この項目は重複選択が可能な項目なので、「陣痛促進-オキシトシン」、「陣痛促進-PG」、「陣痛促進-他の薬剤」、「陣痛促進-機械」という項目を新たに作成し、この項目は全体の有無を表す項目にした。そして「なし」だけを「0」に変換し、それ以外のデータは「1」に変換した。ただし、欠損はそのままにしておいた。

### ● 項目 34: 陣痛促進-オキシトシン (0: なし、1: あり)

## 周産期データベースの精製方法

「0:なし、1:あり」を入力した。

「陣痛促進」項目を元にして新たに作成した項目。「陣痛促進」項目に「オキシトシン」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 35:陣痛促進-PG (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「陣痛促進」項目を元にして新たに作成した項目。「陣痛促進」項目に「PG」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 36:陣痛促進-他の薬剤 (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「陣痛促進」項目を元にして新たに作成した項目。「陣痛促進」項目に「他の薬剤」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 37:陣痛促進-機械 (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「陣痛促進」項目を元にして新たに作成した項目。「陣痛促進」項目に「機械」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 38:分娩 CTG 異常 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データは「なし」、「あり」以外に、文字や数字が入力されていた。それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 39:分娩 CTG (0:なし、1:あり)

## 周産期データベースの精製方法

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データは「ED」、「LD」、「MVD」、「SVD」、「Brady」、「Tachy」、「その他」が重複して入力しており、これ以外のデータも入力されていた。

この項目は重複選択が可能な項目なので、「分娩 CTG-ED」、「分娩 CTG-LD」、「分娩 CTG-MVD」、「分娩 CTG-SVD」、「分娩 CTG-LV」、「分娩 CTG-Brady」、「分娩 CTG-Tachy」、「分娩 CTG-その他」という項目を新たに作成し、この項目は全体の有無を表す項目にした。そして「なし」だけを「0」に変換し、それ以外のデータは「1」に変換した。ただし、欠損はそのままにしておいた。

### ● 項目 40:分娩 CTG-ED (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「ED」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 41:分娩 CTG-LD (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「LD」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 42:分娩 CTG-MVD (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「MVD」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

### ● 項目 43:分娩 CTG-SVD (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「SVD」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

● 項目 44: 分娩 CTG-LV (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「LV」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

● 項目 45: 分娩 CTG-Brady (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「Brady」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

● 項目 46: 分娩 CTG-Tachy (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「Tachy」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

● 項目 47: 分娩 CTG-その他 (0:なし、1:あり)

「0:なし、1:あり」を入力した。

「分娩 CTG」項目を元にして新たに作成した項目。「分娩 CTG」項目に「その他」が入力されている時は「1」を入力し、それ以外は「0」を入力した。

● 項目 48: 分娩時出血量

0～6000 の数字データだけ採用した。

## 周産期データベースの精製方法

「(羊水込み)」と付記されたデータも、数字をそのまま採用した。「-99」、「-999」等は欠損に変換した。「99」というデータが103例、「999」というデータが28例あった。この中には欠損データのつもりで入力されたものもあると思われるが、そのままにしておいた。

- 項目 49: 母体基礎疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

- 項目 50: 母体基礎疾患－中枢神経疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 51: 母体基礎疾患－呼吸器疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 52: 母体基礎疾患－消化器疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 53: 母体基礎疾患－肝疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠

損に変換した。

● 項目 54: 母体基礎疾患－腎疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 55: 母体基礎疾患－泌尿器疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 56: 母体基礎疾患－血液疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 57: 母体基礎疾患－心疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 58: 母体基礎疾患－甲状腺疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠

損に変換した。

- 項目 59: 母体基礎疾患—骨・筋系統 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 60: 母体基礎疾患—子宮疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 61: 母体基礎疾患—付属器疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 62: 母体基礎疾患—外傷・中毒 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 63: 母体基礎疾患—血液型不適合 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠



損に変換した。

● 項目 64: 母体基礎疾患－精神疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 65: 母体基礎疾患－自己免疫疾患 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 66: 母体基礎疾患－本態性高血圧症 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 67: 母体基礎疾患－糖尿病 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

● 項目 68: 母体基礎疾患－その他 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠

損に変換した。

- 項目 69: 母体基礎疾患－感染症 TORCH (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 70: 母体基礎疾患－感染症その他 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 71: 妊娠合併症 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

- 項目 72: 妊娠合併症－重症悪阻 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 73: 妊娠合併症－切迫流産 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 74: 妊娠合併症－頸管無力症 (0:なし、1:あり)

## 周産期データベースの精製方法

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 75: 妊娠合併症－妊娠中毒症 (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 76: 妊娠合併症－妊娠中毒症 Eo (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 77: 妊娠合併症－妊娠中毒症 Lo (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 78: 妊娠合併症－妊娠中毒症 S (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

### ● 項目 79: 妊娠合併症－妊娠中毒症軽症 e (0:なし、1:あり)

## 周産期データベースの精製方法

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 80: 妊娠合併症－妊娠中毒症軽症 h (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 81: 妊娠合併症－妊娠中毒症軽症 p (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 82: 妊娠合併症－妊娠中毒症重症 E (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 83: 妊娠合併症－妊娠中毒症重症 H (0:なし、1:あり)

文字データを「0:なし、1:あり」に変換した。

元データには「なし」、「あり」以外のデータも入力されていたが、それらのデータは欠損に変換した。

- 項目 84: 妊娠合併症－妊娠中毒症重症 P (0:なし、1:あり)